「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。紙版次号向けには
6月上旬までに情報をお寄せください。
掲載料は無料です。

＜オンラインでも楽しめる＞ シリーズ

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館 Web 展示室

https://www.tfu.ac.jp/kogeikan/ouchi/index.html

展示室Ⅰ「芹沢銈介があつめた仮面 ― MASK ―」
展示室Ⅱ「東北藍めぐり ―染織とやきもの―」
展示室Ⅲ「アジアの布
―芹沢銈介コレクションの更紗―」
展示室Ⅳ「芹沢銈介蒐集・インドネシアの絣(かすり)」

仙台市博物館「おうちで楽しむ展覧会」

https://www.city.sendai.jp/museum/tenji/ouchitenrankai_top.html

・おうちで楽しむ展覧会 YouTube
伊達武将隊と行く！はっけん！仙台市博物館
・おうちで楽しむ展覧会 ホームページ
重要文化財指定記念「伊達家文書と藩主の印章」
・チャレンジ！おうちで楽しむ博物館

スリーエム仙台市科学館 YouTube チャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCjlw6iptGz21s5sONei_VRg/featured

・おうちで科学館
・おうちでチャレンジ・ラボ
・中学生向け理解学習動画
・小学生向け理解学習動画 など多数

読者の声 Voice Park

読者と編集部のキャッチボール

第51号 シリーズ「東日本大震災」【10】―コミュニティ―

「災害は忘れた頃にやってくる」そんな文句とは別として、私たちの地域で「自主防災訓練を行ってください」とのことで、去る2月7日午前8時頃に直下型地震が発生（震度8強）したと想定して、各自石油ストーブ、ガスコンロの点検、出入口の確保、事前の家財道具の転倒防止など、避難訓練を行いました。全戸参加したかは定かではないけど、一応災害について自主防衛を行いました。

（大崎市・78歳）

編：先日も震度6強の地震がありました。自主訓練の成果を実感されたのではないでしょうか。「備えあれば憂いなし」という言葉のとおり、日ごろの訓練や備えの重要さを身に沁みました。

10年というけれど、「もう」なのか「まだ」なのか、災害は毎年おこるのに、氣象は激しくなるのに、備えているのか不安な氣持ちはあります。コミュニティのあり方を考えなくてはならないと思いました。

（仙台市青葉区・62歳）

編：2021年2月13日23時7分 にあった福島県沖震度6強の地震は、嫌でも10年前の東日本大震災を想起させられました。いざというときにどのように安全を確保するか、個人としてもコミュニティとしても日頃から備えておきたいですね。

その他のお便りと編集部からのコメントは Web 版でご覧いただけます。

第53回 名著への旅

『民衆暴力 ― 一揆・暴動・虐殺の日本近代』

藤野裕子 著
中公新書

（2020年8月25日初版発行）

近代国家が「暴力」を統制し始めた一方で、民衆による権威への「抵抗としての暴力」は、魅力あるものとして運動家には捉えられてきただろう。鶴見俊輔などは、まさにその代表である。

本書の眼目は、民衆による暴力のこれまでのあり方を、新政府反対一揆、自由民権運動期の秩父事件、日比谷焼き打ち事件、関東大震災時の朝鮮人虐殺の検討を通じて描き出すことにある。一方では一定の統制が取れた交渉手段として、他方では無軌道なないしは官製による残虐行為としての「民衆暴力」の姿が示されている。そして、決して「抵抗としての暴力」だけではなく、「民衆の民衆に対する暴力」があった事実を突きつけてくる。

歴史的な事実を踏まえつつ、「民衆暴力」の負の側面に直視しながら「抵抗としての暴力」は今日いかなる形でありうるのか。本書はその起点となるだろう。

（寺）

「笹っぱ活字館」をオンラインでも

https://www.katsujikan.jp/

昨年は新型コロナウイルス感染予防のために恒例「文字・活字とのふれあい Day」をリアル開催せず、代替として「笹っぱ活字館」のホームページを充実させてオープンしておりました。

活版印刷時代の機器類、今も現役で使える活版印刷機、コラム「印刷十話」など、弊社が<お客様の「伝えたい」想いとともに歩んだその歴史の積み重ね>をオンラインでも感じていただければ幸いです。

学びの庭におじゃまします

次号テーマ：「菌」

2021年7月5日発行予定

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先／問い合わせ先

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付 電話受付時間10:00～16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第52号／発行日2021年4月5日
企画・編集 「まなびのめ」編集部／発行 笹氣出版印刷株式会社

「まなびのめ」編集部 川又進 菅野麻実 三上志穂 庄司真希
オブザーバー：笹氣義幸 寺田征也（明星大学）

協力：株式会社市瀬 有限会社阿部正志製本

©笹氣出版印刷株式会社 無断で複写、複製、転載することを禁じます。

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙はFSC®認証材および管理原材料から作られている紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

UD FONT

ご自由にお持ち帰りください。
TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付クイズあります
詳しくは中面へ

仙台市産学官連携研究会 学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 2021. 4 第52号

学びの庭におじゃまします

人と動物

動物を調べると人間も分かる

（前）石巻専修大学 理工学部 教授
（比較栄養生理学・家畜文化論・東日本大震災後の生活復興）

坂田 隆 先生

江戸時代の人の目で動物を見る

（前）東北大学災害科学国際研究所
人間・社会対応研究部門 助教（日本文化史・歴史資料保存）

安田 容子 先生

行ってみよう！「学び」の場所へ

- これからの主な「学び」イベント 29件 掲載！
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『民衆暴力 ― 一揆・暴動・虐殺の日本近代』（藤野裕子）
- Voice Park

ISO 14001 JQA-EM4031

Web版 随時更新中！ まなびのめ
http://manabinome.com/

発行／笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

有料 無料 要申込 申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

オンデマンド配信

「ポストコロナに向けて 海外訪問・訪問者ホストのためのホームスティ英語表現を習得しておこう」（宮城大学オンライン公開講座）

無料 申込不要
講 師 曽根洋明氏（宮城大学基盤教育群准教授）
場 所 https://www.myu.ac.jp/research/koukai2020/
主催者 宮城大学 問合先 TEL 022-377-8319

「コロナ禍での町内活動・地域活動のバージョンアップ」（宮城大学オンライン公開講座）

無料 申込不要
講 師 小地沢将之氏（宮城大学事業構想学群准教授）
場 所 https://www.myu.ac.jp/research/koukai2020/
主催者 宮城大学 問合先 TEL 022-377-8319

2020年度【震災と文学】「仙河海を歩く」（オンライン公開）

無料 申込不要
講 師 熊谷達也氏（作家）
場 所 https://www.youtube.com/watch?v=qB_4BY6u7pA&t=129s
主催者 東北学院大学地域連携センター 問合先 TEL 022-264-6562

2020年度【震災と文学】「福島を詠み続けて」（オンライン公開）

無料 申込不要
講 師 和合亮一氏（詩人）
場 所 https://www.youtube.com/watch?v=y27PtlxCrSA&t=8s
主催者 東北学院大学地域連携センター 問合先 TEL 022-264-6562

2020年度【震災と文学】「小高を生きる」（オンライン公開）

無料 申込不要
講 師 柳美里氏（小説家・劇作家）
場 所 https://www.youtube.com/watch?v=7rw9oc3sKT4
主催者 東北学院大学地域連携センター 問合先 TEL 022-264-6562

定期開催

トワイライトサロン「土佐誠の宇宙が身近になる話」

毎週土曜日 17:00▶17:45
無料 申込不要
講 師 土佐誠氏（仙台市天文台名誉台長）
場 所 仙台市天文台オープンスペース
主催者 仙台市天文台 問合先 TEL 022-391-1300

開催中

瑞巌寺宝物館企画展「近代の画家シリーズ①」得楼・鉄園兄弟展～仙台藩画員・佐久間家の正統～

～6月10日(木) 8:30▶17:00
有料 申込不要
https://www.zuiganji.or.jp/ （入館は16:30まで）
場 所 瑞巌寺宝物館
主催者 瑞巌寺宝物館 問合先 TEL 022-354-2023

コーナー展示「東北の縄文遺跡 ―南相馬市中才（なかさい）遺跡―」

～6月13日(日) 9:00▶16:45
有料 申込不要
（入館は16:15まで。月曜休館）
場 所 仙台市縄文の森広場
主催者 仙台市縄文の森広場 問合先 TEL 022-307-5665

企画展「わたしは思い出す 10年間の子育てからさぐる震災のかたち」

～6月13日(日) 10:00▶17:00
無料 申込不要
場 所 せんだい3.11メモリアル交流館 2F 展示室
主催者 せんだい3.11メモリアル交流館 問合先 TEL 022-390-9022

学びの庭におじゃまします

編集部内で研究者インタビューのテーマ・人選を話し合っていたところ、
「県内にラクダの研究をしている先生がいる」「2024 年が国際ラクダ年らしいが氣になってそれまで待てない」
ということで、石巻専修大学の前学長・坂田隆先生にお話を伺うことにいたしました。
動物からいただく恵みにも思いをはせながら「人と動物」の関係を考えてみましょう。

動物を調べると人間も分かる

ヒトもすごいがラクダもすごい

高校時代には人文科学に関心がありましたが、結局東北大学農学部の畜産学科に進みました。もともと日本とヨーロッパの文化の違いに興味があったので、ヨーロッパの食の重要な柱である畜産を学んでみようと考えたのです。ただし、高校・大学とボート部で、そちらは熱心でしたから、高校の授業は夢の中、学部時代はたまに大学に行く程度でした（笑）。

家畜というとウシ、ウマ、ブタ、ヒツジ、ヤギなどが思い浮かびますが、ユーラシアからアラビア半島、アフリカにかけての乾燥地ではラクダも重要です。こうした旧世界のラクダは全て家畜で、ヒトコブラクダがアフリカ・中近東・インドなど、フタコブラクダがモンゴルからアジア中央部にかけて、おもに乳用として飼育されています。水やエサを節約するしくみが発達していて、かなり塩分の高い水も利用できるので、砂漠のような乾燥したところでもラクダは生きていけます。1950 年代まではモンゴルから新疆（しんきょう）、中央アジアの交易やサハラ砂漠の交易で大いに活躍しました。サハラ交易をする人は雌ラクダの乳と干したナツメヤシだけをたべて、オアシスの間を移動しました。100 年ほど前までは中国の北京付近にも 1 万頭以上いて、近郊の炭坑から石炭を運んだり、内蒙古の帰綏（きすい）（現在のフフホト）や張家口との間で荷物を運んだりしていました。

ラクダ乳は牛乳よりも好まれていて、ソマリアやケニアでは主要なたんぱく源になっています。また、毛も利用されていて、ブランド商品のブレザーの材料にもなっています。

ヒトは暑さにはダントツに強いけれども、乾きにはからきし弱いほ乳類です。しかし、ラクダは断水につよく、塩分が多い砂漠の水でも飲めます。また、長い前肢を幹にかけ、長い首を伸ばすと、他の動物では届かない高い木の葉も食べられます。ヒトはラクダを家畜として使うことによって、乾燥地帯に進出できるようになったのです。

エサや水が乏しくても、背中のコブの脂肪を使ったり、体温調節の手を抜いたりするなどのしくみでしのぎながら、150 kg から 200 kg もの荷物を背中に載せて 1,500 km 以上運ぶことができる。歩く速度はウマやロバよりも速い。栄養価の高い乳を出し、肉も食べられ、毛も活用できます。

ほ乳類同士はそれほど違ったしくみを持っているわけではありませんが、機能の程度には差があります。私たちはヒトを基準にして動物を見がちですが、他の動物を調べることで、ヒトがどのような動物なのか、どのような特徴を持ったほ乳類なのかを理解できるのです。

ラクダとの暮らしから地球の未来を考える

ヒトが食べたものは食道と胃を通って、小腸で消化や吸収がすすみ、大腸へ入って腸内細菌による消化が行われます。一方、ラクダをはじめ、ウシやヒツジなどの反芻類、ハムスターをはじめとするかなりの齧歯類、カンガルーなどでは胃が複数の部屋に分かれていて、最後の部屋以外には細菌や真菌などの微生物がたくさん住んでいます。ウシの胃は 4 室に分かれていて、第一胃と第二胃は 100 リットルもの食物を平均で 1 週間たくわえて、その間に微生物が草の主成分であるセルロースを分解します。微生物たちは草に含まれるセルロースをブドウ糖に変え、自分が増殖するために使う一方で、酢酸（さくさん）などの短鎖（たんさ）脂肪酸を排泄します。この短鎖脂肪酸をウシは第一胃と第二胃から吸収して、最大のエネルギー源として使います。ちなみにラクダやカンガルーの三つあるうち最初の二つの胃、二部屋の胃をもつハムスターの最初の胃でも似たようなことがおこっています。

一方で、こうして増殖した細菌や真菌の体はほとんどが良質のたんぱく質で、やがて小腸に流れていって消化・吸収されて骨や筋肉、皮膚、内臓などの材料になります。

こうしたメカニズムについては講談社ブルーバックスの『砂漠のラクダはなぜ太陽に向くか？　身近な比較動物生理学』という本で解説しましたので、どうぞお読みください。ラクダやモグラなど「極端な環境」で生きる動物たちの体のしくみについて、楽しく学んでいただけると思います。ただしタイトルに反して、半分くらいはウシなどの消化・吸収のお話です（笑）。この本が 1991 年に出てだいぶ経ってから、総合地球環境学研究所（地球研）のプロジェクトを狙っていた縄田さんに「ラクダの研究者として、プロジェクトに加わってほしい」とお声がけをいただきました。

学部長をしていた時期でもあって、「私はラクダの専門家ではありませんよ」と言ったのですが、まだ 30 歳代だったリーダーの縄田さんが熱心で、「アラブ社会におけるなりわい生態系」というテーマも魅力的だったことからお受けしました。アラブの産業といえば石油のイメージが強い一方、乾燥地域で千年以上も自給自足的な生産活動を続けてきた人々がいます。地球環境の問題が深刻化する中、少ないエネルギー資源で生命・生活を維持してきた住民たちの「なりわい」にあらためて注目し、石油に頼るだけでない未来の可能性を探ろうというプロジェクトです。

リーダーの縄田さんは文化人類学、現京都精華大学長のサコさんは建築学、私は栄養生理学と、多彩な専門家が参加しました。私はラクダについて書かれた世界中の文献や FAO（国連農業機関）の統計を調べたり、スーダンで現地の人々がラクダと暮らす様子を観察したりするなどしました。このプロジェクトでは他分野の先生方から学ぶことも多く、「本当のラクダの専門家」に少し近づいた私は、今もラクダによる内陸交易やラクダの軍事利用の研究を続けています。

動物の体のしくみから石巻の伝統食まで

私が東北大学でお世話になった家畜形態学者の玉手英夫先生には研究者として重要なことを忍耐強く指導していただきました。中でも印象に残っているのは「1 頭のヒツジを 24 時間観察し続ける」という研究室に入った直後の課題です。じっくりと観察することの大切さは研究者として何度も痛感しました。

学部で調べたのはゴールデン・ハムスターの 2 室ある胃袋の構造と生後成長です。必要な個体数を確保するために、エサや光環境、巣作りの材料などを改良して繁殖率を約 2 倍にして、なんとか研究がまとまりました。同じように胃の中に微生物を住まわせていても、ハムスターと反芻類の胃は大きく違うということが分かりました。

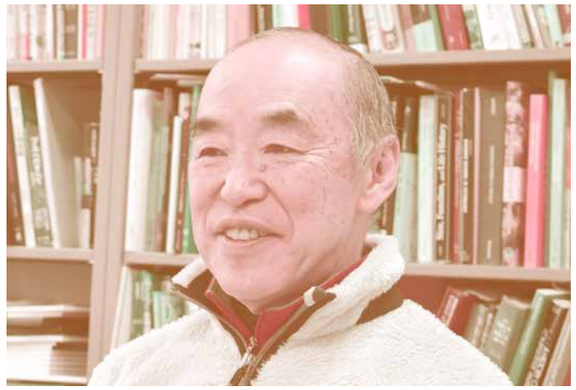
大学院ではヒツジを使いました。胃の中の短鎖脂肪酸の生産速度の違いによって、ヒツジやウシはエサの量や質を把握していることが分かりました。おなかに穴を開けて、ここから反芻胃の組織をごく少量採集して実験をしたのです。狙った組織をきちんと取れるか、正常な増殖速度とはどのくらいか、少量の標本をどう処理するか、様々な工夫が必要でした。この研究は後に肉牛の成長が止まる栄養障害の解決法に結びつきました。

博士課程の修了後は思わぬご縁で西ドイツ（当時）のホーエンハイム大学に職を得ました。恵まれた研究環境と待遇に驚きながら、大腸内の粘液などのテーマに取り組みました。研究室にはラクダやカンガルーもいて、これが後の研究に役立ちました。ドイツの獣医大学や日本企業の研究所などを経て、開学準備のため石巻に赴任したのは 1988 年です。

私は栄養生理学、比較動物生理学などの自然科学から、家畜文化論などの人文・社会科学に研究領域を広げてきました。また東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市の大学の学長としての御縁で生活復興の研究もしています。その一環として石巻地域の伝統的な食文化を調べ、『たべる つくる 石巻』というレシピ集にまとめ、その秋冬版が先日出ました。

今は日清戦争の毛筆の戦闘記録や世界各国のラクダ乳の生産量など様々な資料がインターネットで手に入ります。どなたでも深く学ぶことが可能です。皆さんもぜひ、動物について調べてみてください。最初に申し上げた通り、動物について考えることは、人間を知ることでもあるのです。

（取材＝2021 年 2 月 9 日／石巻専修大学 1 号館 1 階　坂田隆研究室にて）



（前）石巻専修大学　理工学部　教授
専門＝比較栄養生理学・家畜文化論・東日本大震災後の生活復興

坂田　隆先生

《プロフィール》（さかた・たかし）1951 年愛知県生まれ。東北大学農学部卒業。東北大学農学研究科博士課程修了。農学博士。西ドイツのホーエンハイム大学、ハノーバー獣医大学研究員、ヤクルト本社中央研究所、フランス農林省農業総合研究機構勤務を経て、1989 年の石巻専修大学の開学にあわせて理工学部助教授就任。1997 年より教授。2007 年から 2016 年まで第 4 代学長を務めた。2021 年春に教授を退任し、同大学共創研究センター特別研究員に。著書に『砂漠のラクダはなぜ太陽に向くか？　身近な比較動物生理学』『はじめてナットク！ 大腸内幕物語　知られざる臓器をさぐる』など。共著書に『沙漠学辞典』『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの 50 年』『人間と自然環境の世界誌―知の融合への試み』『砂漠誌 人間・動物・植物が水を分かち合う知恵』『消化管の栄養・生理と腸内細菌』『東日本大震災石巻市における復興への足取り』『東日本大震災ボランティアによる支援と仮設住宅』など。

懸賞

図書カードを当てよう！　まなびのめクイズ　正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1　坂田先生がかかわった地球研におけるプロジェクトの研究テーマとは？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。安田容子先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2021年6月10日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

「人と動物」の関わりは、歴史的文書とくに美術資料にも数多く見られるようです。
動物と美術、どちらも好きで研究分野を広げている安田容子先生のお話を伺いました。
一点集中だけでない研究の深め方の面白みにもつながります。

江戸時代の人の目で動物を見る

小学生の時に出会った伊藤若冲の絵

私は宮城生まれの京都育ちです。子どもの時から動物が大好きで、京都では住まいの都合で犬や猫は飼えませんでしたが、家族は小鳥を、私はハムスターを飼っていました。また岩出山町（現・大崎市）の祖父母の家には乳牛がいて、訪ねるたびに会えるのが楽しみでした。

将来は「獣医さんなど動物に関わる仕事がしたいな」と思っていた小学生時代、書道教室で他の子が持ってきた古新聞に大きく掲載されていた絵に目が釘付けになりました。チョウ、カエルやトカゲなど無数の小さな生き物が池に集いうごめく様子を描いた、写実的でありながらも不思議な構図と雰囲氣の日本画です。譲ってもらって説明文を読み、学校のすぐ近くに 200 年も前に住んでいた人が描いたことを知りました。江戸時代の画家・伊藤若冲（じゃくちゅう）の「池辺群蟲図」です。私は絵を見たり描いたりすることも好きでしたが、これが絵を通じて「人が動物をどう見るか」に関心を持つきっかけになりました。

高校は理系のクラスでしたが、合格した東北大学文学部で日本美術史を専攻することになりました。動物そのものだけでなく、人が動物をどう表現したのかという動物との関わりも含めて研究したいと思いました。これは高校時代に、南方熊楠（みなかたくまぐす）という明治から昭和にかけて海外でも活躍した研究者の、多彩な業績を知ったことも影響しています。

（前）東北大学災害科学国際研究所　人間・社会対応研究部門　助教
専門＝日本文化史・歴史資料保存

安田　容子先生

《プロフィール》（やすだ・ようこ）1979 年宮城県生まれ。東北大学文学部卒業。東京大学大学院 新領域創成科学研究科 修士課程・博士課程に学び、東北大学大学院 環境科学研究科 博士課程修了。博士（学術）。2012 年より東北大学災害科学国際研究所 研究員、2018 年より助教。2021 年春より、広島市の安田女子大学文学部講師に。著書に『松森胤保の愛玩動物飼育』『書画会の華やぎ　地域に息づく遍歴の文人たち』、共著書に『江戸時代の政治と地域社会 第 2 巻　地域社会と文化』など。

専門性を極めることには、もちろん大きな意味があります。しかし研究分野を横断したり、様々な立場の人が総合的にアプローチしたりすることで分かることも少なくありません。私が所属する「生き物文化誌学会」は生き物と人間文化の関係を追究する学会ですが、空想上の生き物も対象ですし、市民の会員も多く、大学の研究者以外にも広く扉を開いてきました。今回のお話のテーマそのものである「ヒトと動物の関係学会」にも所属していますが、こちらも動物に関わる表現活動をしている人や、一般の方がたくさん参加しています。

大学と大学院では、日本人が歴史の中で動物をどう描いてきたか、またどう記述してきたかを研究しました。対象は例えば、仏教で死後に悪行の報いで動物に生まれ変わる「畜生道」を描いた絵や、江戸時代に広く親しまれた物語本、絵本、浮世絵に登場する動物たちです。集めたり調べたり、現代や外国と比較したりするうちに、ある動物に強く興味を引かれるようになりました。それはネズミです。

江戸時代もあったネズミのペットブーム

ネズミは人間にとって、身近でありながらよく分からない動物です。走る音や鳴く声を聞くことはあっても、暗い所にいて素早いため、じっくり見ることはめったにありません。またネズミは種類が多く生態も様々で、専門家でも野生の種を瞬時に判別するのは難しいそうです。

そしてネズミは人間に、極端に好かれたり嫌われたりする不思議な動物です。私自身、ハムスターをかわいがる子どもだったのに、道で死んでいたドブネズミを見た時は氣持ち悪くなりました。建物の中など私たちの身近には、家ネズミであるハツカネズミ、ドブネズミ、クマネズミが暮らしています。ハツカネズミは小さいのですが、ドブネズミやクマネズミの大きいものは 20 cm 以上もありますから、怖いと思う人も多いでしょう。

現代の人とネズミとのこうした関係は、江戸時代後期の都市部によく似ています。江戸時代の人々は白いネズミを珍重していましたが、18 世紀になると上方で盛んに繁殖が行われるようになり、子どもたちにも人氣になりました。毛色が斑（ぶち／まだら）のネズミも様々に作られ、こうしたブームは当時の他の文化と同様に江戸へと伝わって、やがて全国へと広まります。

安永 4 年（1775）に大坂で刊行された『養鼠（ようそ）玉のかけはし』という本は、ネズミの飼い方のガイドブックです。「奇品」と呼ばれる毛色の変わったネズミを手に入れる方法や餌の与え方などが詳しく書かれ、当時の人々の熱中ぶりが分かります。

その一方で、ネズミが穀物や野菜を食い荒らす困った存在だったことも今と同じです。寿命は短いものの多産で「ネズミ算式」に増えるため、完全な駆除は困難です。個体数の増減には波があるようですが、時に大発生すると、ふだんはあまり姿を現さないだけに大騒ぎになります。

安政 2 年（1855）の春から夏にかけて全国各地でネズミが大発生し、現在の島根県西部では 55 万匹を打ち殺したのにまた大群が現れた、というかわら版が江戸で出ました。前年の嘉永 7 年（安政元年）に東南海連動地震津波が発生し、日本列島各地で大きな被害があり、同年 10 月に江戸を襲った大地震で 1 万人以上が命を落としたこともあり、ネズミの大発生を大きな災害の中にある小さな災害と捉える表現も見られます。

また人間にとってネズミは、吉凶両方のイメージを持つ動物でもあります。江戸時代には大黒天信仰と結びついて、拝む対象にもなりました。「白鼠は縁起が良い」として、置物を作ったりすることは今も行われています。

しかしネズミは「火事を予知して逃げ出した」など、不吉な知らせを運ぶともされてきました。江戸時代では 19 世紀に入ると、ドブネズミが絵本などの「悪役」として定着します。また「四谷怪談」では主人公のお岩さんが子（ね）年生まれの設定で、裏切った伊右衛門はネズミの大群に襲われて最期を遂げます。こうして日本文化史の中の人間とネズミの関係を調べ、考えていると興味が尽きません。

庄内の武士が残した動物の貴重な記録

美術史では観賞用に描かれた絵だけでなく、記録用に描かれた絵も重要な研究対象です。現代の図鑑にも写真ではなく、特徴がよく分かるよう細部まで明るく描かれたイラストを用いたものがありますね。江戸時代にも動植物など様々な記録が作られましたが、美しく彩色されたものや当時刊行されたものも多く、観察力や描写力に驚かされます。

しかし、絵はみごとでも、直接見て描いたものよりも、他の図譜を写したものが多く、また、生息地・採取地などの記載がないものも多くあります。

その意味で松森胤保（たねやす）という、江戸末期から明治にかけて今の山形県庄内地方に生きた人物の業績は特筆に値します。武士だった松森は 68 年の生涯で、藩政でも維新後の地方政治でも腕をふるい、教育者としても名を残しました。戊辰戦争でも兵を率いて活躍し、松山を守ったとして松森（松守）の姓を藩主よりもらい受けました。加えて文章にも絵にも優れ、自ら野山を駆け回って鳥やチョウなどを捕らえては、数多くを彩色で記録しています。既存の記録や西洋から入った図鑑類には不満で、独自の分類や進化の説に基づく 59 冊の『両羽博物図譜』を作りましたが、惜しいことに未完のまま亡くなりました。

実見した人魚のミイラを実在するものとして記すなど、目にしたものは何でも観察して記録する、鋭い観察眼の持ち主です。特に、採取した日を明記し、寸法を測るなどした記録はこの時期には珍しく、現代の動物学研究にも貢献しています。師を持たず地方在住で、本が刊行されなかったことから地元以外ではほとんど知られていませんでした。観察記録だけでなく、機械の発明や絵入りの日記など残された資料は膨大で、全貌が明らかになるのはまだこれからです。たいへん魅力的な人物であり、私もその文章を現代の文字に起こすなどして研究の一端を担っています。

2012 年からは東北大学の災害科学国際研究所で、主に津波等によって被災した美術資料の保存について研究してきました。津波で多くの貴重な資料が、知られることなく失われたり損なわれたりしたことは本当に残念です。しかし個人の蔵に残る資料や、被災後に救出された資料は、美術品として鑑賞することは難しくとも、そこから、今まで知られていなかった地域の歴史文化を解き明かすことが出来ます。この春からは広島の大学へ移りますが、松森の資料や被災地の歴史については、これからも研究を続けます。

専門分野を究めるだけでなく、広く多方面から光を当てることで新たな発見があるのも、学問・研究の面白さです。皆さんもご自分の関心対象に様々なアプローチをすることで本質に触れることができるはずですので、ぜひ学び続けてください。

（取材＝2021 年 2 月 24 日／東北大学青葉山キャンパス
東北大学災害科学国際研究所 5 階歴史資料保存研究分野研究室にて）

懸賞　図書カードを当てよう！　まなびのめクイズ　正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 江戸時代、大坂で刊行されたネズミの飼い方のガイドブックの書名は？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。坂田隆先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2021年6月10日 当日消印有効

キーワード・タグ検索もできます

Web版はより多くの情報を随時更新しています。

まなびのめ　検索

http://manabinome.com/

開催中

企画展「貝塚の壁―海と沼の貝塚―」　～6月20日(日)　9:00▶17:00　有料　申込不要

（入館は 16:30 まで。水曜休館）

場所　奥松島縄文村歴史資料館

主催者　奥松島縄文村歴史資料館　問合先　TEL 0225-88-3927

4 APR

写真展「星野道夫　悠久の時を旅する」　4月17日(土)～6月27日(日)　9:00▶17:00　有料　申込不要

（入館は 16:30 まで。月曜休館）

場所　仙台文学館　企画展示室

主催者　仙台文学館　問合先　TEL 022-271-3020

特別展「デンマーク・デザイン」　4月23日(金)～6月27日(日)　9:30▶17:00　有料　申込不要

（入館は 16:30 まで。月曜休館。※ 5/3 は開館、5/6 は休館）

場所　東北歴史博物館

主催者　東北歴史博物館、河北新報社、仙台放送　問合先　TEL 022-368-0106

角田市郷土資料館「甲冑展」　4月24日(土)～5月16日(日)　9:00▶16:30　無料　申込不要

（月曜休館）

場所　角田市郷土資料館

主催者　角田市郷土資料館　問合先　TEL 0224-62-2527

足立美術館展「横山大観、竹内栖鳳、華やかなる名品たち」　4月24日(土)～6月6日(日)　9:30▶17:00　有料　申込不要

（発券は 16:30 まで。月曜休館）

場所　宮城県美術館

主催者　宮城県美術館、河北新報社、tbc 東北放送　問合先　TEL 022-221-2111

企画展「せんだい職業づくし」　4月24日(土)～7月4日(日)　9:00▶16:45　有料　申込不要

（入館は 16:15 まで。月曜休館）

場所　仙台市歴史民俗資料館

主催者　仙台市歴史民俗資料館　問合先　TEL 022-295-3956

アースデイ講演会「“ヒト”と地球環境の 700 万年史」　4月24日(土)　11:00▶12:30　無料　要整理券

講　師　井龍康文氏（東北大学大学院理学研究科 教授）

（当日 9 時から整理券配布）

場所　仙台市天文台加藤・小坂ホール　定員　50名（小学校4年生以上）

主催者　仙台市天文台　問合先　TEL 022-391-1300

講演会「足立美術館の魅力―日本庭園と日本画コレクション―」　4月24日(土)　14:00▶15:30　無料　要申込

講　師　安部 則男 氏（足立美術館 学芸部長）

場所　宮城県美術館　講堂　定員　150 名

主催者　宮城県美術館、河北新報社、ｔｂｃ東北放送　問合先　TEL 022-221-2111

「デンマーク・デザイン」関連企画講演会「ヒュゲの国のデザイン文化」　4月25日(日)　13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　萬屋健司氏（山口県立美術館　学芸課主任）（要特別展観覧券）

場所　東北歴史博物館　定員　145 名

主催者　東北歴史博物館、河北新報社、仙台放送　問合先　TEL 022-368-0106

5 MAY

せんだい文学塾・山形小説家・ライター講座　5 月講座「書評家とライターの条件」（オンライン）　5月16日(日)　14:00▶16:00　有料　要申込

講　師　豊崎由美氏（書評家）

場所　Zoom を用いてのオンライン開講

主催者　せんだい文学塾、山形小説家・ライター講座　問合先　sakka.naro@r7.dion.ne.jp

参加体験記「学び」イベントに行ってきました

■「古文書に見る江戸時代仙台の災害」江戸時代後期の災害 ― 古文書の記録を中心に ―

講師：佐藤大介 氏（東北大災害科学国際研究所准教授）

2020 年 12 月 19 日（土）13：30 ～ 15：00　仙台市歴史民俗資料館

このイベントは、昨年末、仙台市歴史民俗資料館で開催された講演会です。同資料館で展示中の「仙台の災害」の関連行事として行われているシリーズ講演の一つです。講師は佐藤大介東北大准教授です。

江戸時代の三大飢饉の最後、天保の飢饉に対して仙台藩はどう対応したのか、当時の古文書を読み解きながら解説してくれました。

天保飢饉時仙台の状況は、天保 4 年に冷夏で凶作、6 年には大洪水、宮城県沖地震発生などの自然災害に見舞われ、7 年には再び大凶作となり、実高 93 万石のうち、98％が損耗した（つまり 2％の収穫量）そうです。

この時代は斉邦が 12 代となる藩主でした。文政 10 年（1827）、10 歳の時に幕府若年寄堀田正敦を後見人として少年藩主となったのですが、後見人正敦の死没後、天保 4 年（1833）から藩政を自ら執ることになりました。ですが、天保の大飢饉に遭遇することとなり、飢饉対応や藩政改革なども一因となったものか、天保 12 年に 24 歳の若さで生涯を閉じることになります。

斉邦は江戸城中では日本三賢君と称されていたうえ、一連の藩政や飢饉対策でも藩士や領民から好意的に評価されていました。斉邦は粥の食事、綿布の着物を身に付けるなど質素倹約に努め、飢饉に苦しむ領民の救済に尽力しました。藩の出費を抑えるため政宗公 200 年忌のための亀ヶ岡八幡宮の普請を中止し、御用金の確保、他領米の調達、仙台商人を勘定奉行に登用して救済事業を行わせるなど対策を進めます。さらに仙台城下町の富裕層を中心に参加を募り、御救助方万人講という富くじ方式による資金調達を行いました。領主、領民同士の協働によってなんとか凌ごうとしたということです。

この大飢饉では結果的に多くの餓死者が出てしまいます。米など調達のため藩内の金銀が流出し、インフレが起こるなど結果は必ずしも芳しいものではありませんでした。それでも藩主の評価は悪くはなりませんでした。

以上は私流のまとめですが、伊達斉邦に関しては佐藤准教授の著書があり、これが参考になります。「少年藩主と天保の危機　大災害下の仙台藩主・伊達斉邦の軌跡」（国宝大崎八幡宮仙台・江戸学叢書 68　2017 年）

現下の新型コロナウイルスによるパンデミックも大変な事態です。どのような終息結果を迎えるにしろ、国民に自粛生活を要請しておきながら、夜には高級ステーキ会食に参加するような国のトップの振る舞いでは、令和の大塩平八郎の乱は起こらないでしょうが、国民の氣持ちは離れていくことでしょう。

佐藤准教授は北上川河口部の北上町（現石巻市）を対象として地域史を研究されています。その成果について数年前に「よみがえる北上川河口の歴史」と題してシリーズ講演会を地元で開催されました。縁あって何度かその講演会に参加することができ、興味深く拝聴しました。

佐藤准教授の今後の益々の活躍を期待して講演会の報告とします。

（仙台市　島田昭一）

第51号

まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第51号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1　新井信幸先生が副代表を務めるNPO法人の名称は？

答え　つながりデザインセンター

Q.2　井内先生が米国の大学院で研究対象にしていた新潟県中越地震が発生したのは何年何月？

答え　2004 年 10 月

図書カード 1,000円分　図書カード 1,000円分　図書カード 1,000円分

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から抽選で3名様に図書カードが当たりますので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

■民俗芸能講座「口承文芸の世界」第 3 回「女川口説―書承という伝承」

2021 年 3 月 14 日（日）13：30 ～ 15：00　東北歴史博物館 1 階研修室

3 月 14 日（日）、東北歴史博物館へ聞きに妻と行ってきました。仙台に住んで間もなく紫桃正隆氏の著書『歴史の夜ばなし』に出逢いました。飯田の口説（はんだのくどき）が、270 年前の実話を基に語り継がれ現在に至った経緯が、本講座でよく分かりました。

時間を延長してまで、実際の口説（テープによる）を全部聞かせていただきました。主人公のお節さんが獄中で作ったという曼荼羅が私の住まいのすぐ近くの善導寺にあることが判明し、不思議な縁を感じております。

併設のレストラン・グリーンゲイブルも味よし眺めよし、お勧めです。広い窓からの眺めは、時が止まったようにゆっくりすごせました。

（仙台市　嶽間澤忠良）

参加体験記 編集部も「学び」イベントに行ってきました

■せんだい 3.11メモリアル交流館　企画展「うみべの小学校」＆震災遺構仙台市立荒浜小学校解説ツアー

2021 年 12 月 5 日（土）10：20 ～ 13：00

2020 年 9 月 26 日 (土) ～ 2021 年 1 月 31 日 (日) に、地下鉄東西線荒井駅に併設されている「せんだい 3.11 メモリアル交流館」主催の企画展「うみべの小学校」を見る機会がありました。

東日本大震災の津波による甚大な被害により、統合や閉校を余儀なくされた三つの小学校―「荒浜小学校」「中野小学校」「東六郷小学校」の思い出を集めて紹介する展示イベントです。津波到達時に止まった大時計や体育館に飾られていた校歌の木製ボードなどの展示のほか、BGM は、小学校で実際に録音された日常音というところにもこだわりを感じました。

今回は、展示にあわせて開催された「震災遺構仙台市立荒浜小学校　解説ツアー」にも参加しました。当日は、企画担当の学芸員さんの解説を聞きながら展示を見た後、荒井駅から仙台市営バスに乗車して、約 10 名の参加者の方々と共に、現在は震災遺構として一般に開放されている「仙台市立荒浜小学校」を見学しました。その日は天候も良く青空の向こうに海が見え、その距離の近さをしっかり意識することになりました。

4 階の展示室「3.11 荒浜の記憶」で見たドキュメンタリー映像では、地域の指定避難所でもあった小学校で、あの日、どんな時間が流れていたか垣間見ることができます。校長先生や町内会長さんたちの判断や決断によって守られた命のことを考えさせられました。

今年の 3 月 11 日で震災から丸十年が過ぎましたが、「区切り」というものをつけられる人ばかりではありません。まだまだ前を向いて生きていくことが難しい人や地域もあるでしょう。「どうなれば復興したといえるのか」の基準や価値観も人によって様々です。メディアで取り上げられる回数が減ったとしても、ときおり、それぞれのタイミングで、あの日のことを思い返す時間が必要だと感じた一日でした。

「まなびのめ」編集部　庄司　真希

参加体験記「学び」イベントに参加したら感想を書こう!

読者の皆様が参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。

掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈!

ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント!

※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。

■ 投稿方法　はがき、FAX、E-mail、Web版投稿フォームにて受付。

■ 投稿先　「まなびのめ」編集部　※詳細は最終ページをご覧ください。

粗品進呈

「まなびのめ」配色法：襲色目（かさねのいろめ）

第 52 号・春／「桃」（momo）

これからの主な「学び」イベント

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

5 MAY

2021 年度東北大学艮陵同窓会 特別講演会「日本とフランス：違いを超えて相互憧れ」（オンライン公開）　5月22日(土)～6月21日(月)　無料　申込不要

講　師　フロランス　メルメ＝オガワ氏（元明治大学教授）

場所　http://www.gonryo.alumni.med.tohoku.ac.jp/

主催者　東北大学艮陵同窓会　問合先　TEL 022-717-8181

関連講座　「南相馬市中才・鷺内遺跡の縄文時代後・晩期の発掘成果について」「中才遺跡出土の製塩土器を考える」　5月29日(土)　13:00▶15:00　無料　要申込

講　師　川田強氏（南相馬市教育委員会文化財課）・高橋満氏（福島県立博物館）

場所　仙台市縄文の森広場＋オンライン開催　定員　会場30名＋オンライン100名

主催者　仙台市縄文の森広場　問合先　TEL 022-307-5665

「デンマーク・デザイン」関連企画講演会「ロイヤルコペンハーゲン ビングオーグレンダール」　5月30日(日)　13:30▶15:00　無料　要申込

講　師　塩川博義氏（日本大学教授）（要特別展観覧券）

場所　東北歴史博物館　定員　145 名

主催者　東北歴史博物館、河北新報社、仙台放送　問合先　TEL 022-368-0106

6 JUN

小池光短歌講座 2021　第 132 回　6月12日(土)　13:30▶15:40　有料　要申込

講　師　小池光氏（歌人）（申込締切 5/11(火)）

場所　仙台文学館　定員　50 名

主催者　仙台文学館　問合先　TEL 022-271-3020

せんだい文学塾・山形小説家・ライター講座 6 月講座「小説と能楽について」（オンライン）　6月27日(日)　14:00▶16:00　有料　要申込

講　師　藤沢周氏（作家）

場所　Zoom を用いてのオンライン開講

主催者　せんだい文学塾、山形小説家・ライター講座　問合先　sakka.naro@r7.dion.ne.jp

7 JUL

小池光短歌講座 2021　第 133 回　7月3日(土)　13:30▶15:40　有料　要申込

講　師　小池光氏（歌人）（申込締切 6/10(木)）

場所　仙台文学館　定員　50 名

主催者　仙台文学館　問合先　TEL 022-271-3020

企画展「せんだい職業づくし」関連講座「職人の技術と文化」　7月4日(日)　13:30▶15:00　有料　申込不要

講　師　仙台市歴史民俗資料館学芸員

場所　仙台市歴史民俗資料館

主催者　仙台市歴史民俗資料館　問合先　TEL 022-295-3956

連続講座

館長講座「佐伯一麦とエッセイを読む、書く」（全 4 回）　(A)2021年6月13日(日)、9月26日(日)、11月21日(日)、2022年1月30日(日)　(B)2021年7月11日(日)、10月31日(日)、12月19日(日)、2022年1月30日(日)　13:30▶15:30　有料　要申込

講　師　佐伯一麦氏（仙台文学館館長）（申込締切 4/20(火)）

場所　仙台文学館　定員　各 15 名

主催者　仙台文学塾　問合先　TEL 022-271-3020

仙台文学館 ゼミナール 2021「落語を味わう」（全 3 回）　6月3日(木)・6月10日(木)・6月17日(木)　10:30▶12:00　有料　要申込

講　師　六華亭遊花氏（落語家）（申込締切 5/11(火)）

場所　仙台文学館　定員　50 名

主催者　仙台文学館　問合先　TEL 022-271-3020

仙台文学館 ゼミナール 2021「通信俳句実作講座」（全 3 回）　作品提出締切日：2021年6月4日(金)・8月6日(金)・10月8日(金)　有料　要申込

講　師　西山睦氏（「駒草」主宰）（申込締切 5/11(火)）

場所　（郵便）　定員　30 名

主催者　仙台文学館　問合先　TEL 022-271-3020